

鼠径ヘルニア(脱腸)

＜脱腸とは＞

本来はおなかの中にある腸管などの内臓が、筋膜の隙間から飛び出してくる状態です。先天的なことが原因の小児と異なり、成人では体の筋力が弱くなることや、運動不足などが原因となります。

足の付け根の部分（＝鼠径部）から飛び出すことが多く、股の部分が膨らむことで発見されます。

ほとんどは無症状ですが、違和感や痛みを伴う場合もあります。手術以外に治療方法はありません。

＜手術の内容＞

当院では腹腔鏡手術を導入しています。臍上部を15mmほど切開して、腹腔鏡といわれるカメラを入れて、おなかの中から脱腸の原因となっている場所を確認します。そのほか左右の脇腹に5mmほどの穴をあけます。

成人では小児と異なり、組織が弱いことが原因なので補強が必要になります。医療用のメッシュを挿入して飛び出す穴を塞ぎます。腹腔鏡のメリットは、

① 傷口が小さく目立ちづらいこと

② 両側の観察が可能なこと

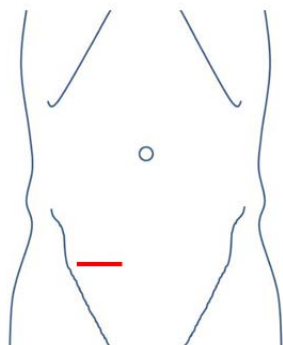
⇒腹腔鏡で両側に脱腸の原因となる穴が確認できた場合は、同時に両方とも治療することが可能

が挙げられます。

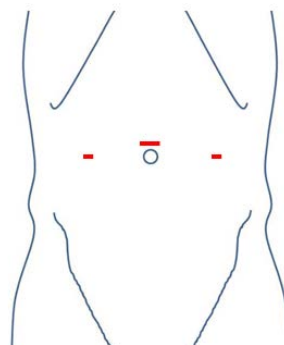
腹腔鏡で手術することが難しい場合は、従来のやりかた（下腹部のしわに沿って5cmほどの切開）に切り替えることがあります。過去に下腹部の手術や、前立腺の手術を受けたことがある方は、受診時に医師にご相談ください。

手術時間は片方で1時間半前後です。

従来的方法(右側の場合)



腹腔鏡手術



《手術の危険性は》

1) 全身麻酔 …約 10 万回に 1 回の死亡率

天使病院で行われる全身麻酔は低出生体重児から高齢者まで合わせて 1 年間に約 1000 件です。単純計算で 100 年に 1 回の極めてまれな出来事です。起こる出来事は麻酔薬に対する強烈なアレルギー反応による呼吸障害や不整脈や血圧低下などの循環障害です。誰に反応が起こるのかを前もってわかることができないので、全員に起こることを想定して行われています。手術室は緊急に対応できるもっとも安全な場所ですので、ほとんど心配はありません。

2) 出血 …にじむ程度出血量

3) 感染 …ほとんど起こりません

感染とは傷が化膿することですが、ほとんど起こることはありません。ただしもし万が一感染した時には、傷を少し切開してうみを出す処置が必要なことがあります。また、メッシュは感染に弱いため、感染の状態によってはメッシュを摘出する手術が必要になることがあります。

4) 再発

メッシュの位置がずれたり、他に弱い場所ができて再発することが報告されています。再発した場合は再手術になります。

《手術の予定の立て方》

原則として月～金曜日毎日行っています。手術前日に入院していただきます。術後は傷の痛みの程度次第で退院日が決まります。通常は術後 2-3 日の入院ですが、ご希望に応じて手術当日の退院も可能です。傷は細い溶ける糸を使って、糸が皮膚の下に埋まってしまうように縫いますので、抜糸はありません。消毒やガーゼは不要です。食事制限や運動制限はありません。

※注意！

腸が入り自由な時は、痛みもなくただ出ているだけなので心配ないのですが、腸が出た時に根元の筋肉に締め付けられることがあり、これを絞扼（こうやく）といいます。これを放置すると大変危険で、6時間以上経つと腸の血の巡りが悪くなって、腸に穴が開いてしまいます。そうなるお腹膜炎になり大きな手術をして腸を切らなければなりません。

基本的には激痛ですので、絞扼（こうやく）した場合はすぐに分かると思います。

絞扼（こうやく）した時には、あわてずに「鼠径ヘルニア・臍ヘルニアセンター」までご連絡ください。

電話番号

011-711-0101 (天使病院 代表)